

- ② 動作や状態のかわる場所をあらわす
- ③ 動作や状態がなり立つ状況をあらわす

ア 動作や状態がなりたつとき

・わたしは、毎朝、六時に起きる。

イ、移動動作の目的

・おじいさんは、山へしばらくに行きました。

ウ、原因

- ④ 結果やようす、認識の内容をあらわす

- ⑤ 補助的な組み合わせの構成要素

「日本語の文法 p37」

とりよ・せる【取り寄せる】(動サ下一)

(1)手に取って引きよせる。

「手を伸ばして箱をー・せる」

(2)人に命令したり注文したりして、物を持ってこよせる。

「見本をー・せる」

(3)人を呼びよせる。手もとにおへ。

「御むすめにおほこの三位の中将をー・せ給ふとりかへばや(上)」

C ？？

C 食べものとかも大変だったんじゃない？

T 戦地だから、いろんなことが不自由していったらうね。

「が」？

C くらいがい

T 大変だった、ということと食いちがうことが、次にある。

次はだれのこと？

C 戦友たち

T 戦友たちも、となっている。

C お父さんも探したけど、戦友たちもさがした。

T うん。じゃあ、なかみを読むよ。戦友たちもどう？

C 協力して

C さがしてくれた。

C 竹や紙やひもを探してくれた。

C などだから、ほかに探してくれた。

T そうだね。戦友たちも協力してくれたんだ。だれ(何)に？

C お父さん。

C お父さんの風つくり。

C 父の熱心さに。

T うん。お父さんに協力してくれたんだ。父の熱心さ、とい

うのは、協力する相手になるかな？

・とっせん電話にびっくりした。

という使い方もするんだ。それは、？

C ビックリした理由。

C 父が熱心にやっているから、協力してくれた。

T 父の熱心さに、というのは、父が熱心なので、どうしよう

に言い直してもいいかもね。

C じゃあ、父の熱心さというのは、どうしようかどう。

C 風を作るために、いっしょうけんめいになって、探したら

した。

C 風のことを、戦友にいっしょうけんめい言った。

T きっと、いろいろあったらう。風好きの父だから、風の

ことになると、一所懸命だったんだらうかね。それを見てどう？

戦友たちも？

C 協力して、探してくれた。

C *この場合の協力は、戦友同士が協力するという意味も含

まわれるかもしれない。たっさんの戦友が協力したのだ。

T うしてくれた、となっているよ。前にも出てきた。

C お父さんのために。

C 風つくりのために。

T 自分ではなく、人のためにしたんだ。

T そして、次の文。だれのこと？

C 隊長さん。

C 隊長さんまでも。

T までも、っていうのも、ちょっと前に出てきたね。

C 中国へ行ってまでも。

C 普通だったら、隊長さんは、そんなことに協力しないのに、

隊長さんまで協力してくれた。

T 何をしてくれたかという点？

- C 絵の具を取り寄せてくれた。
- T 取り寄せるって？
- ・ほしかったおもちゃがなかったので、取り寄せてもらった。
- C 注文した。
- T うん、普通は、注文をして、買うことを言うんだ。ただ、この場合は、戦争中の戦地。今のようにはいかないよ。絵の具って、簡単に手に入っただろうか。
- C ? 無理。絵の具なんかない。
- T 戦争をしにしているんだからね。絵の具なんか、もともとないだろう。だから、取り寄せたんだ。
- 普通なら、隊長さんだったら、こんな戦争中に風などを作るとは、何ごとだ！といって、怒るよ。もしかしたら、殴られるかもしれない。たぶん、そういう隊長さんのほうが多かった。ところが、この隊長さんは、怒るところか、わざわざ、絵の具を取り寄せてくれた。隊長だからね、いろいろと命令ができるんだ。どこかに命令して、もってこさせたのかもしれない。どっちにしても、普通ではないんだ。
- 隊長さんまでが、こんなふうにするということとは？
- C お父さんが、よほど熱心だった。
- C お父さんは、いっしょけんめいだったんだよ。
- T そこで、次の文。だれがどうした？
- C 父は、涙をこぼした。
- C あまりのうれしさに、涙をこぼした。
- C これも、あまのうれしかったので、涙をこぼしたんだ。
- C 父は、すくすくうれしかった。うれし泣き。
- T そうだね。「この」「この」も、なつきと同じだ。よみ気がついたぞ。
- 父は、うれし泣きをしたんだけど、泣いたとは書いてないね。涙をこぼしたとなっている。涙をこぼすというのとは？
- C 泣くこと。
- T それじゃあ、同じになってくまじ。
- では、こぼす、こぼれるというのとは、どう違うの。こぼれると考えた方がわかりやすいかな。
- C いっぱいになってこぼれる。
- C あふれてくる。
- C こぼすのも、そのつもりはないけれど、こぼれる。
- T うん。お父さんは、いっぱいになってあふれてしまったんだ。それは何だろうって？
- C 涙。
- C 泣くまいと思っていたけど、涙が出た。
- C うれしくて、我慢できなかった。
- C うれしさがいっぱいになったんだ。
- T そうだね。あまのうれしさに、と書いてある。うれしさにいっぱいになって、涙があふれてきたんだろうね。それくらい、うれしかったんだ。こういうのを、感謝の気持ちというんだよ。

「〜しながら」「〜して」（既出）

「〜しながら」は主たる動き（述語のあらわす動き）と同時の動きをあらわす。だから、文の部分としては修飾語であり、品詞としては副詞になる。「〜して」「〜しながら」の二つを副動詞という。

同時形としての副動詞は、「おみながら」「おみおみ」「おみつ」の三つの形がある。それぞれいかにえることができまるが、若干ニュアンスがちがうようだ。ただ、その点についてははっきりとした意味的ながいは認められないが、使い方をしつ、「おみながら」が標準的で、「おみつ」がやや古くさい文体の中で使われ、そして、「おみおみ」が主としてはなじみの中で使われることが多い。いずれにしても大切なのは、同時の動きだということだ。

既出のものは、この基本的な用法ではなく、とくべきな用法の場合だった。

「日本語の文法 p134」

【▼屹度△屹度】(副)

「それ」の促音添加。「屹度」「屹度」は「して」

(1) 確実にしなるといふ子測してゐる。

明日は晴れる「君なら一合格するや」

(2) 自身の事柄に關しては決意を、相手に對しては強い要望を表す。

必ず。「一〇〇回はお返し致しませう」

(3) 敵しいませ。状態にゆるみがないませ。「鉢巻を一結び」

(4) 動作・状態が瞬間的であるませ。

C 日本に残したあたしたちのことを

T あたしたちだから

C お母さんとわたし

T 日本に残したというの、うらい気持ちだ。お母さんは、
本当はお父さんはどうだと思っつもの。

C いっしょにいたかった

T そうだね、それは、お母さんの気持ちでもあるだろうな。
ところで、「〜ながら」となっているね。今までできて
たよ。

C 巴御前のところ。女ながらも。

T その時に勉強したんだけど、ここでは、女ながらもとはち
がうんだ。

A、ほくは、テレビを見て、宿題をした。

I ほくは、テレビを見ながら、宿題をした。

この二つ、なんかちがうね。

C Aは、別々のこと。テレビを見て、それから宿題をした感
じがある。

C Iは、宿題をしているとき、テレビを見ている。

T そう、「ながら」というのは、同時じいごるじよ。ど、
言いたいのは、ほくは、どうだったよ。

C 宿題をしたこと。

T そう。日本語では、だいたい、最後に中心のことがかいて
ある。述語って、言ったよね。「ながら」は、同時にやっ
ていることなんだ。

では、ここで、お父さんは、わたし達のことを思いなが
ら、どうしたかというよ。

C 絵をかいた。

T そうだね。絵をかいているとき、わたし達のことを思って
いたんだろうなって、お母さんは思っているんだ。

わたし達のことを思っつって、どうしようもないことを
思っただろう。

C 元気かな。

C 友江は大きくなったかな。

T うん、生まれたてのわたしを置いて、連れていかれたから
ね。わたしのことも思っただろうし、魚屋のことも思っただ
もしれないね。

そういう気持ちで、絵をかいた。何の絵かというよ。

C 巴御前の絵

C いいえ、友江の絵

T うん、ここで、言い直している。どうしてだろうよ。

C 吉野さんからは、巴御前の絵だと聞いていた。

C お父さんは、戦友に、巴御前の絵だと言っていたんだと思
う。

C わたしのために、巴御前の扇を作ってくれたから、お母さん
は、それは、友江のことだと思った。

T すごいねえ。よく考えた。戦争中だから、戦地で、家族の
絵をかいたりなんて、許されなかった。でも、巴御前なら、
勇ましくて強い。お父さんは、これは、巴御前です、と、戦
友や隊長に説明していたんだろうね。でも、お母さんには、
その気持ちがわかるんだ。

もう一つ、かいているときのようすがあった。

C 心をこめて。

C 一枚、一枚、心をこめて

T もう、今までの中でお父さんの気持ちはわかるね。

これは、お母さんの想像だ。でも、吉野さんの話を聞いていて、こう思ったんだ。吉野さんの言ったこと、似たようなことがあったね。

C どんな短い休み時間も、こつこつ働いた。

T うん、このこつこつが、お母さんには、こんなふうに思えたんだ。それは、本当かどうかはわからないけど、お母さんの強い気持ちがわかる言葉がある。

C きつと。

T そう。きつと。きつとというよ。？

C 絶対。

C まちがいない。

T 強い気持ちだね。それを、一番最後に言っている。自分が思ったことは、きつとそうだと思っている。お父さんのことがよくわかっているお母さんだから、吉野さんの話を聞いて、お父さんの気持ちが伝わってきたんだろうよね。

損な話をお母さんよ？

C よく聞いていた。

C よく聞いていた。

T 言っているときのお母さんの顔はどんなだとおもしろい？

C 哀しそう。

C うれしそう。

T うん、どっちだろう。死んだんだから、哀しい。でも戦地で、ちゃんとわたし達のことを思っていたというところがわかって、うれしい。ちょっと、複雑な気持ちだ。

でも、穏やかな顔で言っていたんだろうかな。

T 今日のよじろ、ほかとわかるんじゃないよ？